

3. 8 長野県の活動報告

長野県健康生きがいくアドバイザー協議会

1. 事業概要

(1) 事業の目的

長野県下に避難者している皆様に各市町村から事業の募集チラシを配布していただき、多くの皆様に参加していただくことで①避難者の悩みや困っていることをお聴きし、相談活動をする ②避難者同士のネットワーク化を図り、困ったときはお互いに助け合うことができるように支援する ③その結果、避難者の生活安定支援となり、長野県に避難してよかったとさせていただく。

(2) 実施体制、他団体との連携、他地域との連携状況

実施体制 長野県健康生きがいくアドバイザー協議会の理事（15名）を中心に実施。

開催日は理事のほかに、会員にも協力参加いただいた。

他団体との連携

長野県長寿社会開発センター・信濃毎日新聞社の2団体に、チラシに後援団体として名義を借用した。長野県（健康福祉部・危機管理部）、社協（長野市災害ボランティア委員会）から、避難者の状況等の情報入手に協力いただき、県下の市町村（長野市・千曲市・上田市・東御市・小諸市・佐久市・松本市・安曇野市・茅野市・伊那市・駒ヶ根市・飯田市・飯島町・阿南町…）から、避難者への募集チラシ配布に協力いただいた。

他地域との連携状況 特になし。

(3) 事業の実施内容

当初は避難者の皆さんとお茶のみサロンを開催して、避難者の皆様の悩みや困っていること等をお聴きし、我々ができることがあれば支援して元気に生きがいを持って生活していただくよう考えました。しかし、既に県下で行政が社会福祉協議会に委託して「お茶っ子広場」を毎月1～2回開いており、現状は参加避難者が多くても数人で参加者ゼロのときもあった。

このため、同じようなことをやっても参加者が集まらないので、当面は県下の名所を一緒に散策してから話し合うこととした。長野県の名所を散策することで①長野県に避難してよかったとさせていただける ②多くの参加者が集まれば、避難者同士の交流が広がり心の交流も図れる ③話し合いだけだと参加者は大人が中心だが、名所散策なら子供も連れて家族全員で参加し、子供達も元気になっていただける ④避難

者の皆さんの悩みや困っていることをお聴きし、行政（県・市町村）に伝え官民一体となって生活安定の支援を行える。

実施内容①「秋のブドウ穫りを楽しむ会」

実施日 平成24年9月16日（日）
実施場所 長野市 小山農園
案内した避難者 H23年度就労支援事業（H24年2月実施した「3・11避難ネットワーク長野」）に出席し住所・氏名がわかっている長野市内の避難者4世帯10名に案内郵送。
参加避難者 8名（当協議会会員9名参加し、合計17名）
事業内容 当協議会北信支部の会員交流例会で計画した「ブドウ穫り」に、避難者に声をかけた。当日は各人がブドウを収穫し、そこで美味しいブドウを食べながら情報交換等を行なった。特に参加した子供達は大喜びで元気だった。

実施内容②「JR快速ナイトビューに乗って、姨捨駅から夜景を楽しむ会」

実施日 平成24年9月29日（土）
実施場所 JR長野駅 18:48発⇨姨捨駅 19:33～20:24⇨長野駅 20:59着 姨捨駅で夜景を楽しみ、地元の皆さんが味噌汁を振舞い民話の語りべもあり楽しい時間を過ごした。
案内した避難者 9月の「ブドウ穫り」に参加した8名の皆さんに本件の話をした。
参加避難者 5名（当協議会会員2名がスタッフとして参加し合計7名。JRへ申込んだところ指定席が満席で、空いているチケットが7枚だった）
事業内容 姨捨（千曲市）は棚田と名月の里で、JR全国3大車窓に選ばれた夜景の優れた駅で、参加した避難者は夜景の素晴らしさに大喜びだった。

実施内容③「善光寺を散策参拝し歓談する会」

実施日 平成24年10月20日（土）
実施場所 長野市 善光寺・宿坊「湊之坊」
案内した避難者 県下の避難者1,162人（平成24年6月現在）のうち、原則として30人以上避難者のいる11市町村863人にチラシ配布依頼した。ただ、市町村によっては避難者への配布物がなかったこともあり、行きあう機会がなくて、今回のチラシの配布ができなかった市町村もあった。

参加避難者 41名（当協議会会員12名がスタッフとして参加し合計53名）
 事業内容 善光寺周辺を散策参拝し善光寺本堂で供用祈願し、陸前高田市高田松原の松の木を使って作ったお地藏さまをお参りし、宿坊測之坊で善光寺精進料理の昼食後、皆さんの希望・悩み等をお聴きし、悩みの解消や今後の具体的計画を詰めた。

避難者の皆さんに最初は県内の住居地域3箇所（北信・東信・中信）に別れて話し合ったが、その後皆さんの希望により出身地別（浜通り・中通り・会津と福島以外）に別れて話し合った。

主な悩みと課題では、①子供のこと。（緊急時に帰省する際に子供を預かってもらえる施設・機関を教えて欲しい。父親と離れて子供の精神状態が不安定…）②福島へ帰省する交通費の負担が大きく大変なため、長野と福島間の格安夜行バス（金曜の夜出発し、日曜の夜に帰ってくる）運行を希望する。

当日参加避難者のアンケートでは、①今回の感想は95%が「大変満足」 ②出身地別（浜通り・中通り・会津と福島以外）に別れて話し合った結果、親しく話ができお互いに住所や電話番号等を教え合い、ネットワーク化ができて今後の交流や連絡相談が出来る喜んでいただいた。

実施内容④「安曇野市みさと温泉で心と身体を温め歓談する会」

実施日 平成25年2月9日（土）
 実施場所 安曇野市みさと温泉「ファインビュー室山」
 案内した避難者 前回10月の善光寺散策参拝と同じで、避難者30人いる市町村の863人へチラシ配布を市町村に依頼した。

参加避難者 58名（当協議会会員12名参加し、合計70名。10月の善光寺散策参拝に参加し、今回も参加した方は7家族17人）

事業内容 寒い時期で雪も多いため、名所散策を控え温泉で話し合うことで、心と身体を温めていただこうと、安曇野市みさと温泉「ファインビュー室山」で行なった結果、前回の善光寺を上回る多くの方が参加申し込みされた。

まず、地元の「マリンバ マミーズ」の皆さんのミニコンサートを聴き、昼食後に前回の善光寺の際の悩み等で①緊急時に帰省する際に子供を預かってもらえる施設・機関は、市町村へ直接確認していただくこと、学校への通学の問題から簡単に預かってもらえないこと、市町村によっては皆様に子供を預かれる施設を伝えてくれることを説明した。②長野と福島間の格安夜行バスの運行は、採算面等

から難しいことを伝えた。

次に皆さんの希望・悩み等をお聴きし悩みの解消や今後の具体的計画を詰めるため、出身地別（浜通り・中通り・会津と福島以外）に別れて話し合った結果、①広島県が発行した「被爆者手帳」と同じように、避難者に「避難者手帳」を発行して欲しい ②格安夜行バスは難しいので、高速料金の割引を行なって欲しい ③住まいの入居期限が1年延長して3年間可能だが、その後どうなるか不明で不安 ④次回は世代別（子供同士・母親同士…）の集まりと語らいの場を希望する ⑤長野県をもっと知りたいので、次回も場所を替えて実施を希望する ⑥福島県以外の避難者へも、家賃の補助等を実施して欲しい。

その後、皆さん温泉入浴を楽しんでから解散した。

今回の安曇野市みさと温泉は殆どの参加者が初めてで、周辺の北アルプス等の山の眺めが素晴らしく、温泉からの眺めも良かったと喜んでいただいた。また、仲間と親しく話ができ、ネットワーク化ができ今後の交流や連絡相談が出来ると喜んでいただいた。

2. 事業成果

(1) 成果

社会福祉協議会が実施している「お茶っ子広場」は参加者が少ないため、県下の名所を散策してから話し合うことで、多くの参加者を集めたいと計画し、市町村から避難者へ事業の募集チラシを配布してもらった結果、10月の長野市の善光寺の参加者が41名（申込は49名）・2月の安曇野市みさと温泉の参加者が58名（申込は61名）と、社会福祉協議会の催しよりも10倍以上多い大勢の参加申込みがあった。

この結果、避難者の皆さんの悩み等もお聴きできたが、現実はすぐには希望通りには実施が難しい状況だった。

(2) 問題点・課題

チラシの配布を市町村にお願いしたが、一部の市町村では他に配布物が無かったためかチラシ配布をしなかった。また、各市町村へチラシ配布を依頼し届けることも大きな負担だった。できれば県に届けて、県から配布いただければと県にお願いしたが、県も避難者の住所・氏名までつかんでおらず市町村に依頼した。

避難者の願いで、高速道路料金の割引は県や市町村より国に依頼すべきだと思うが、協議会としては国への依頼はできなかった。

(3) 今後の展望

集会所へ集まって懇談するより、県下の名所を散策してから話し合ったことを喜んでいただいた。

平成25年度も引続き県下の名所巡りをして、集まりたいとの希望が多かったので、引続き実施していくと継続して参加する方々が多く、いずれは100名を超える参加者となることも予想される。

(4) その他

平成24年度の「震災避難者の生活安定支援事業」は、我々アドバイザーのボランティア活動としては最適な事業で、成果も大きかった。参加した避難者にも満足していただき、引続き名所を回って話し合う会を続けて欲しいとの希望が多かったので、予算がなければ一部参加者個人負担でも継続を検討したい。